

大学共同利用機関法人自然科学研究機構  
教育研究評議会（第57回）議事要旨

1. 日 時 平成30年6月21日（木）10：40～13：30
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、大隅評議員、小川評議員、國中評議員、小間評議員、佐藤評議員、玉尾評議員、長谷川評議員、花輪評議員、松本評議員、村上評議員、徳田評議員、金子評議員、常田評議員、山本評議員、井本評議員、川合評議員、渡部評議員、室賀評議員、上野評議員、鍋倉評議員、岡本評議員  
（陪席者）  
二宮監事、竹俣監事  
（事務担当者）  
岡田総務課長、高田企画連携課長、鈴木財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 西山管理部長、岡崎統合事務センター 棚木事務センター長及び三好財務部長 他  
（研究成果発表者）  
井口 副台長（国立天文台）
4. 配付資料
  - 1 教育研究評議会評議員名簿
  - 2 教育研究評議会（第56回）議事要旨（案）
  - 3 教育研究評議会概要
  - 4 自然科学研究機構 理事名簿
  - 5-1 自然科学研究機構組織運営通則（抄）等
  - 5-2 機構長選考会議委員候補者（案）
  - 6 平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
  - 7-1 自然科学研究機構国際連携研究センター（IRCC）について（案）
  - 7-2 機構における国際研究交流促進の枠組み
  - 8 基礎生物学研究所組織改編（案）について
  - 9 生理学研究所組織改編（案）について
  - 10-1 平成29事業年度決算（案）のポイント
  - 10-2 財務諸表（案）
  - 10-3 事業報告書（案）
  - 10-4 決算報告書（案）
  - 10-5 監事監査報告
  - 10-6 独立監査人の監査報告書
  - 11 平成31年度概算要求 機能強化経費事項一覧（案）
  - 12 平成31年度 施設整備費概算要求一覧（案）
  - 13 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 第3期中期目標期間における自己点検・外部評価の実施について
  - 14 第7回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について
  - 15 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会（第94回）資料

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から、定足数の確認及び今期の教育研究評議会評議員の紹介があった。引き続き、小森議長から、機構の概要説明が行われた。

1) 前回議事要旨(案)について

前回教育研究評議会(第56回)の議事要旨(案)(資料2)が了承された。

2) 教育研究評議会の関係諸規程について

事務局から、資料3に基づき、教育研究評議会の関係諸規程について説明があった。また、小森議長から、自然科学研究機構教育研究評議会規程第3条第2項に定める理事について、徳田理事を指名する旨の表明があった。

3) 理事の任命について

小森議長から、資料4に基づき、本年4月1日付けで任命した理事について報告があった。

4) 機構長選考会議委員について

小森議長から、資料5-1及び資料5-2に基づき、機構長選考会議委員について説明があり、審議の結果、自然科学研究機構機構長選考会議規程第3条第2号に掲げる教育研究評議会評議員5名について、郷評議員、小川評議員、小間評議員、佐藤評議員、村上評議員が選出された。

5) 平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

金子評議員から、資料6に基づき、平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、議論を踏まえた修正を行った上で決定することが了承された。

(主な意見等は以下のとおり)

- 全体的に運営の仕方はよくやっている。第1期は各研究所がどのようなことを行っているのかという点から、第2期は機構全体としてどのように発展していくのかという点から記載されていたと認識している。第3期はこれらを具体化するという点から記載されているようだが、少し記載内容が控えめではないかと思う。また、全体として、研究に関する記述が少ないと思う。
- この実績報告書は、業務運営に関することを記載するものであるため、研究に関する記述は詳しく記載していない。再来年度は、第3期中期目標期間の中間評価が行われることとなっており、研究の評価も行われる予定なので、この評価に向けて準備を進めているところである。
- 新しい分野の創成について、何か兆しのようなものはあるのか。

- 新分野創成センターに、新たにプラズマバイオ研究分野と先端光科学研究分野を設置した。これらは、ある程度見えてきたものをさらに進めるものである。また、若手を対象に異分野の研究者が交流する場を設けている。
- 生命創成探究センターは、分野の違う研究者が集まっており、かなり意欲的な取組である。また、プラズマバイオ研究分野と先端光科学研究分野は、大化けする可能性があると考えている。このように新分野となる可能性があるものを今年の4月に3つ設置したので、しばらくしたら芽が出るのではないかと考えており、また、失敗を恐れずに進めていくことにも意義があると考えている。
- 新分野創成センターの実施体制は、どのようになっているのか。新たなことを行うところには、人員を配置する必要があると思う。
- 新分野創成センターでは、調査グループである新分野探査室を設置し、そこで調査・検討している。ここでは、予算は大きいものではなく、異分野の研究者が協力して新しいことに取り組むことを条件として、研究対象を調査してきた。プラズマバイオ研究分野では、ある意味でコンサルティング的な仕事をしないと研究者同士が交わるということは難しいと考え、興味を持っている研究者に個別に説明を行い、研究のマッチングをするということを1年かけて行ってきた。人員と予算は、いつでも必要であることは変わらないが、興味を持ってもらうことが重要であると考えている。
- 報告書の前半部分において、機構を作って良かった点、機構があったからこそ進んだ点などを積極的に記載した方が良いのではないか。また、同じ用語が漢字であったり、ひらがなであったりするので、統一したほうが良いのではないか。
- 用語の記載については統一したい。
- ボン事務所を持っていることによって、どのような利点があるのか。
- 海外駐在型URAが、国際連携組織の立上げに向けた外国機関等との調整や海外の情報収集などを行っており、その活動拠点として事務所を設置している。
- 昨年度は、そのURAをネゴシエーターとして、協定を3つ締結するとともに、国際共同研究の可能性がある機関を訪問して情報収集を行い、機構内の研究所に情報提供を行っている。また、ヨーロッパのファンドの調査も行っている。

## 6) 国際連携研究センターの設置について

小森議長及び事務局から、資料7-1及び資料7-2に基づき、国際連携研究センターの設置について説明があり、審議の結果、案(資料7-1)のとおり了承された。

(主な意見等は以下のとおり)

- センターの規模感と研究の進め方について、どのように考えているのか。また、ワークショップは具体的にどのような内容のものを考えているのか。
- 規模感については予算にもよるが、プリンストンには3名程度は配置したいと考えており、これから検討を進めていく予定である。また、研究の進め方

については、プリンストンとマックスプランクでは10ヶ月に1回の頻度で会議を行っており、そこでテーマを議論しているが、日本も数年前からこの会議に加わっている。今年も国立天文台と核融合科学研究所から6名程度が出席しており、これらの議論を通じて研究の進め方を決めている。ワークショップの支援については、戦略的国際研究交流加速事業等で実施しているものの中から、将来的にセンターの部門となるような可能性があるものを考えている。

- 本センターは、小森機構長体制の集大成とみている。新分野創成センター、アストロバイオロジーセンター、生命創成探究センターについても国際的な側面があり、将来的には本センターにまとまっていくと想像しているが、これらのセンターとの関連性はどのようになっているか。
- 本センターは、プリンストンとマックスプランクとで協定を締結する方向で進めている。当初は、予算の関係があるので、1名から2名くらいになると考えているが、必要に応じて発展させていきたい。新分野創成センター等の3つのセンターとも国際的な側面はあるが、個別の事情があるので、育てながら考えていきたい。
- トップサイエンティストが本気でリードしていくものでなければ継続しない。若い研究者が国際連携を進めていくという構想のようだが、この形でしつかりと国際連携が進んでいくのか。
- 若い研究者を雇用して進めていくが、シニアの研究者が指導する体制となっており、これはプリンストンとマックスプランクも同様である。指導するシニアの研究者は、必要に応じて併任や客員という形で対応する予定である。

#### 7) 基礎生物学研究所の組織改編について

山本評議員から、資料8に基づき、基礎生物学研究所の組織改編について説明があり、審議の結果、案（資料8）のとおり了承された。

#### 8) 生理学研究所の組織改編について

井本評議員から、資料9に基づき、生理学研究所の組織改編について説明があり、審議の結果、案（資料9）のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 研究組織が細分化しているが、もう少し大まかにできないか。また、規程に書かれていると組織改編の際の手続きが煩雑ではないか。
- 名前がないと外部から何をしているかわからないこともある。
- 確かに手続きが煩雑となっている。

#### 9) 平成29年度決算について

徳田評議員から、資料10-1から資料10-6に基づき、平成29年度決算について説明があり、審議の結果、案（資料10-1から資料10-4）のとおり了承された。

1 0) 平成31年度概算要求について

徳田評議員から、資料11に基づき、平成31年度概算要求について説明があり、審議の結果、案(資料11)のとおり了承された。

1 1) 平成31年度施設整備費補助金概算要求について

徳田評議員から、資料12に基づき、平成31年度施設整備費補助金概算要求について説明があり、審議の結果、案(資料12)のとおり了承された。

1 2) 平成30年度自然科学研究機構外部評価の実施について

金子評議員から、資料13に基づき、平成30年度自然科学研究機構外部評価の実施について報告があり、意見交換が行われた。

(主な意見等は以下のとおり)

- 機構としての仕掛けとして、トップダウンではなく機構から各機関の個々の研究者を刺激する取組を、外部評価における評価の観点に入れることとしてはどうか。
- 自然科学研究機構としては、トップダウンではなく、ボトムアップにより、各研究者が自由な発想で研究することを基本にしたいと考えている。国際化への要請などがあるが、URAを活用して対応している。
- このような取組を既に実施しているのであれば、評価項目に加えたほうが良いのではないか。
- 頂いた意見を踏まえ、基礎研究をしっかりとサポートしている点を記載したいと思う。

1 3) 第7回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について

山本評議員から、資料14に基づき、第7回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について報告があった。

1 4) 大学共同利用機関を取り巻く動向について

小森議長から、資料15に基づき、大学共同利用機関を取り巻く動向について報告があった。

1 5) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、国立天文台の井口 聖 副台長から「アルマ望遠鏡の最新成果」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上